

第1章

中学生の日常生活

鈴木秀男

1. 授業や学校行事について

図1-1は授業や学校行事について尋ねたものである。「絶対必要」と回答した割合の高い項目から順番に並べた。「できれば必要」を加えると、「文化祭」「部活動」「体育祭」「英語の授業」「数学の授業」「体育の授業」が80%を超えている。最近は多くの学校で実施されている「職場体験」も78.5%となっている。

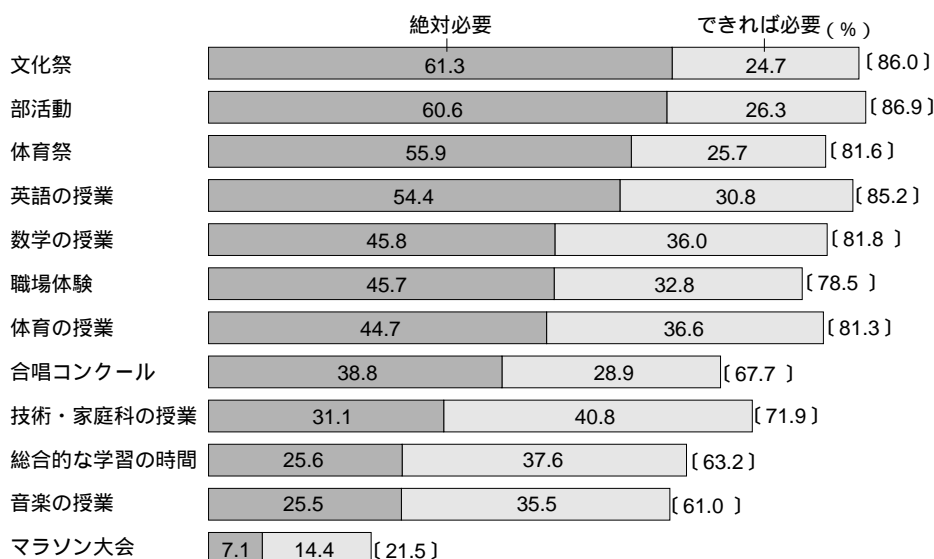
また、「合唱コンクール」67.7%、「技術・家庭科の授業」71.9%、「総合的な学習の時間」63.2%、「音楽の授業」61.0%である。よって、6割以上の生徒が現在の授業や行事、そして教育課程外ではあるが、部活動を必要なものと考えていることがわかる。「マラソン大会」は行われていない学校（「今の学校にはない」33.4%）も多く、「絶対

必要」と「できれば必要」を合わせた割合は21.5%にとどまっている。

表1-1は授業・学校行事について男女別に示したものである。「体育の授業」では「絶対必要」と答えた生徒が男子52.8%、女子36.2%となっているが、「体育祭」では男子51.4%、女子60.6%となっており、男女が逆の傾向がみられる。男子は「体育の授業」を、女子は「体育祭」を楽しみにしている様子うかがえる。

「マラソン大会」では男子10.8%、女子3.2%と男子の割合が高いが、「合唱コンクール」では男子29.5%、女子48.7%、「文化祭」では男子54.3%、女子68.8%と女子の割合が高くなっている。先の「体育の授業」や「体育祭」も含め、項目によっては男女で必要度が違っていることがはっきりとわかる。

図1-1 次のような授業・学校行事は必要か



[]内は「絶対」+「できれば」必要の割合

2. 授業の理解度

図1-2では「国語」「数学」「英語」の授業がどれくらい理解できているかを示した。「全部わかる」は、「国語」8.7%、「数学」14.6%、「英語」14.1%となっている。「7割くらいわかる」を加えると、「国語」48.2%、「数学」48.8%、「英語」

44.3%となり、4割から5割近くの生徒は一応授業が理解できていることになる。

一方、「半分くらいわかる」「3割くらいわかる」さらに「ほとんどわからない」を加えた割合が「国語」「数学」「英語」の3教科全てで半数以上になっている。こうした数値を目にすると、学校の授業で基礎・基本の指導の徹底が求められる背景がはっきりとわかる。

表1-1 次のような授業・学校行事は必要か × 性

	(%)							
	絶対必要		できれば必要		あまり必要ではない		必要ではない	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
文化祭*	54.3	68.8	26.0	23.3	10.8	4.3	7.7	1.8
部活動*	63.4	57.7	22.4	30.4	7.5	7.6	5.9	4.1
体育祭*	51.4	60.6	27.3	24.0	11.5	9.8	8.0	4.0
英語の授業	55.2	53.6	28.4	33.2	8.5	9.7	7.9	3.5
数学の授業	49.7	41.7	33.2	38.8	10.1	14.4	7.0	5.0
職場体験*	42.7	48.8	33.6	32.1	11.2	9.1	7.3	3.4
体育の授業	52.8	36.2	32.3	41.2	10.0	17.2	5.0	5.4
合唱コンクール*	29.5	48.7	27.4	30.5	23.3	13.7	17.4	6.2
技術・家庭科の授業	31.1	31.1	37.5	44.2	20.0	17.3	11.5	7.3
総合的な学習の時間	26.8	24.3	35.1	40.3	21.9	23.4	16.2	12.0
音楽の授業	21.7	29.4	29.9	41.5	32.4	22.7	16.0	6.4
マラソン大会*	10.8	3.2	16.2	12.5	18.2	22.0	22.9	27.4

* 「今の学校にはない」は省略

図1-2 授業の理解度

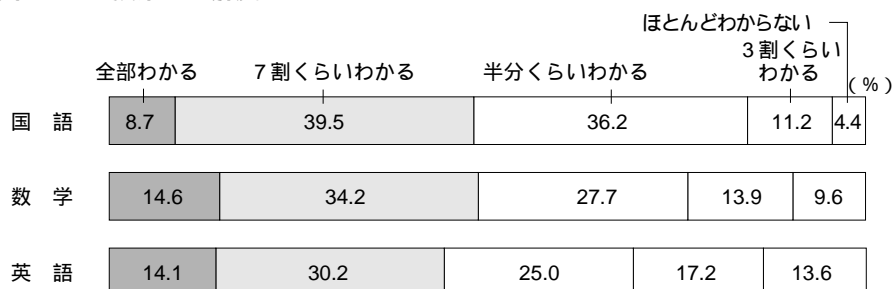


図1-3では授業の理解度を学年別にまとめた。「国語」「数学」「英語」の3教科で同じ傾向が出ている。「全部わかる」と「7割くらいわかる」を加えた割合にわずかながら変化がある。それぞれの教科で、2年生の数値が一度低くなり、3年生でまた上昇している。これは2年生のいわゆる“中だるみ”と3年生の進路に向けたがんばりがあらわれたと受け取れる。

表1-2では「全部わかる」を男女別に、表1-3では「全部わかる」に「7割くらいわかる」を加えた割合を男女別に示した。表1-2の「数学」では、「全部わかる」生徒が男子21.2%、女子7.6%となっており、女子の“数学は苦手”という意識が感じられる。

表1-3からは「国語」がよく理解できる生徒

は女子に多く、「数学」がよく理解できる生徒は男子に多いことがわかる。「英語」は男女同じようである。

3. 学校に行くことが楽しいか

図1-4に学校に行くことがどれくらい楽しいかを示した。「とても楽しい」に「わりと楽しい」を加えると64.9%となる。多くの生徒にとって学校は楽しい場所であることがわかるが、一方で、「ぜんぜん楽しくない」が5.7%、「あまり楽しくない」が9.4%であることを忘れてはならない。

図中に男子、女子の数値を示したが、学校の楽しさは男女で大きな違いがないことがわかる。

表1-4では学年別に学校に行くことがどれく

図1-3 授業の理解度 × 学年

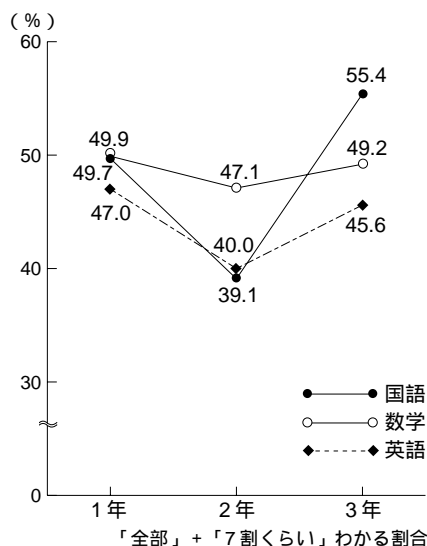


表1-2 授業の理解度 × 性

	(%)	
	男子	女子
国 語	9.2	8.2
数 学	21.2	7.6
英 語	16.9	12.2

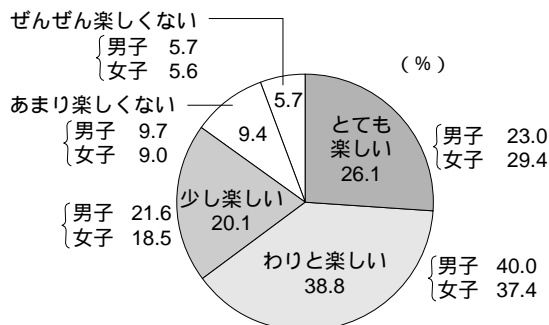
「全部わかる」割合

表1-3 授業の理解度 × 性

	(%)	
	男子	女子
国 語	45.4	51.1
数 学	57.6	39.4
英 語	44.8	43.8

「全部」 + 「7割くらい」わかる割合

図1-4 学校に行くことが楽しいか × 性



らい楽しいかをまとめた。「とても楽しい」と回答した生徒は1年生28.9%、2年生22.8%、3年生26.4%となっており、2年生は1年生や3年生と比べるとやや低い。しかし、「わりと楽しい」を加えると、1年生が65.7%、2年生64.1%、3年生64.7%となり、学校に行くことの楽しさは学年により大きく変わることがないこともわかった。

4. 友だちの人数

図1-5に学校で知り合った友だちの人数を示した。友だちが10人以上いる生徒は79.5%に達する。「10人くらいいる」と回答した生徒も9.5%おり、9割近くの生徒にはたくさんの友だちがいる。友だちが少ない生徒をみると、「4、5人いる」

が6.9%、「2、3人いる」が1.8%、「1人いる」が0.7%、「いない」が1.5%になっている。

図1-6には学校以外で知り合った友だちの人数を示した。10人以上いる生徒は46.3%、「10人くらいいる」が12.5%で、合わせると58.8%となり、6割近くの生徒には学校以外にも多くの友だちがいることがわかる。

5. 日常生活での疑問・情報

1) 日常生活で疑問を感じること

図1-7は、日常生活の中で疑問を感じる必要があるかどうかを示した。「よくある」が24.6%、「ときどきある」が46.2%で、合わせると70.8%になる。中学生は多感な時期であり、学年が上がる

表1-4 学校に行くことが楽しいか × 学年

	(%)		
	1年	2年	3年
とても楽しい	28.9	22.8	26.4
わりと楽しい	36.8	41.3	38.3
小計	65.7	64.1	64.7
少し楽しい	21.5	20.6	18.1
あまり楽しくない	8.4	8.4	11.3
ぜんぜん楽しくない	4.4	6.8	5.9

図1-5 学校で知り合った友だちの人数

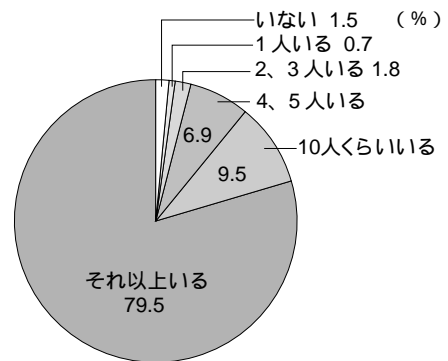


図1-6 学校以外で知り合った友だちの人数

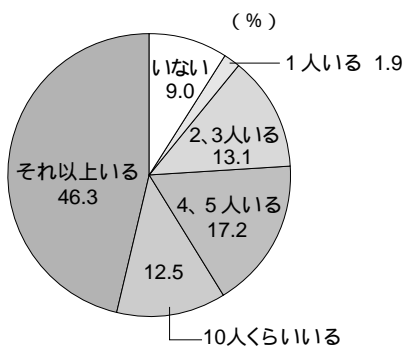
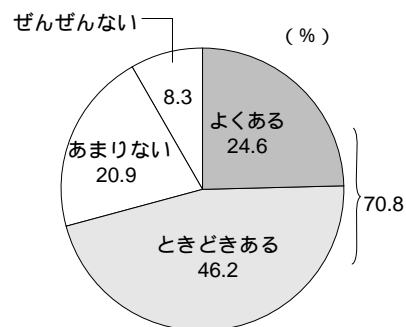


図1-7 日常生活で疑問を感じること



につれて疑問をもつ割合が高くなると想像してみた。しかし、表1-5に示すように、学年が変わっても数値に大きな変化はない。

表1-6には男子、女子別の集計を載せた。ここにも際立った差はみられない。

2) 疑問の答えを知りたいと思うタイプか

図1-8は、疑問を感じたときに答えを知りたいと思うタイプかどうかをまとめた。「とてもそう」は22.5%、「わりとそう」に42.2%の回答があり、合わせると64.7%の生徒が答えを知りたいタイプだと思っている。

3) 情報を調べることに慣れていないか

図1-9は情報を調べるために、インターネットや図書館、そして辞書などをどの程度利用して

いるかを示した。急速に普及している「インターネットで検索する」は「とても慣れている」と「わりと慣れている」を加えると57.5%になる。「辞書や辞典を引く」は62.3%、「図書館を利用する」は40.4%の生徒が慣れていることがわかった。

4) 学校外の施設の利用

図1-10に学校外の施設をどの程度利用しているかを示した。生徒が一番よく行くのは「地域の図書館」で「よく行く」が14.4%、「ときどき行く」が22.7%、「たまに行く」が37.7%で、7割以上の生徒が利用している。次に利用しているのは「スポーツ施設」で、4割を超える生徒がたまには行っている。

中学生は「美術館」の利用が少ないことがこの図からわかる。51.6%の生徒は「美術館」に行っ

表1-5 日常生活で疑問を感じること × 学年

	(%)			
	全体	1年	2年	3年
よくある	24.6	24.6	21.0	28.1
ときどきある	46.2	46.3	45.5	46.7
あまりない	20.9	20.4	22.3	20.1
ぜんぜんない	8.3	8.8	11.2	5.2

表1-6 日常生活で疑問を感じること × 性

	(%)		
	全体	男子	女子
よくある	24.6	27.4	21.5
ときどきある	46.2	43.5	49.0
あまりない	20.9	20.0	21.9
ぜんぜんない	8.3	9.1	7.6

図1-8 日常生活での疑問に答えを知りたいと思うタイプか

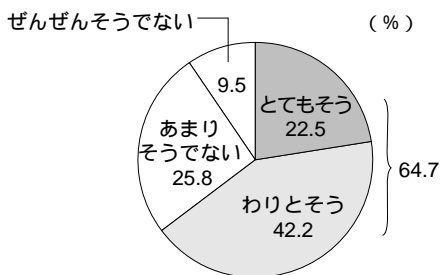


図1-9 情報を調べることに慣れていないか

	とても慣れている	わりと慣れている	ぜんぜん慣れていない あまり慣れていない	(%)
辞書や辞典を引く	17.7	44.6	27.2	10.5
インターネットで検索する	28.3	29.2	22.5	20.0
図書館を利用する	12.5	27.9	38.8	20.7

たことがない。「スポーツ施設」や「博物館」に行ったことのない生徒は3割ほどいる。「遠足」や「総合的な学習の時間」での校外学習の機会があるが、それ以外にはほとんど行っていないようだ。

6. 充実している時間

図1-11にはどんな時間が充実しているかをまとめた。「とても充実している」に「わりと充実している」を加えた割合の高い項目から順番に並べた。最も充実している時間は、「友だちと一緒に

にいる時間」で83.5%に達する。「趣味のことをしている時間」「1人での時間」「家族といる時間」「部活動の時間」「学校の授業時間」はほとんど同じ数値を示しており、7割の生徒が充実していると思っている。

「塾で勉強する時間」が「とても充実している」と答えた生徒は20.5%おり、「学校の授業時間」13.1%を上回っている。この結果には現場の教師として驚いたが、「学校の授業時間」が「わりと充実している」と答えた生徒が56.6%と高い割合を示しているので、胸をなでおろしているところである。

図1-10 学校外の施設の利用

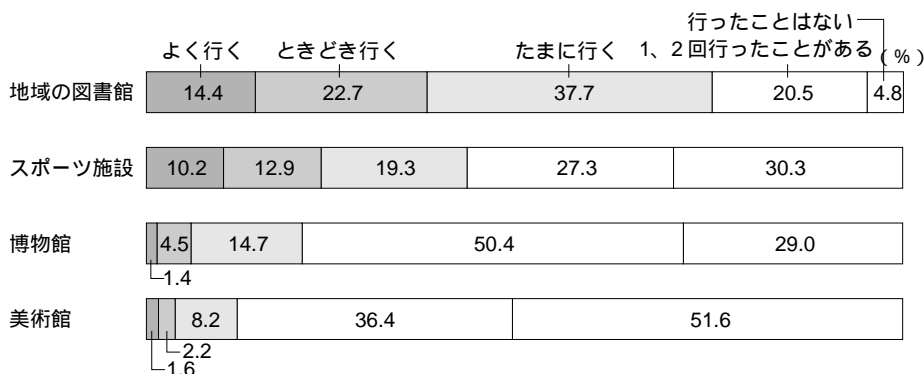


図1-11 次のような時間はどれくらい充実しているか

